

- 1 会議名称 第1回 岡山市御津・建部地域における医療に関する検討会
- 2 開催日時 令和8年6月5日（金） 午後7時30分から午後9時30分
- 3 開催場所 岡山市保健福祉会館9階 機能回復訓練室
- 4 出席者

	所属・職名等	氏名
会員	岡山大学学術研究院医歯薬学域 地域医療人材育成講座 教授	佐藤 勝
	一般社団法人御津医師会 会長	難波 経豊
	公益社団法人岡山県看護協会 会長	二宮 一枝
	岡山県 保健医療統括監	則安 俊昭
	独立行政法人国立病院機構岡山医療センター 院長	柴山 卓夫
	地方独立行政法人岡山市立総合医療センター 理事長 兼 岡山市立市民病院 院長	今城 健二
	国立病院機構岡山市立金川病院 院長	大森 信彦
	岡山市久米南町組合立国民健康保険福渡病院 院長	堀内 武志
関係者	岡山県 美作保健所長	坪井 博文
	久米南町 保健福祉課長	中村 仁
事務局	岡山市 保健福祉局長	西 謙一
	岡山市 保健福祉局次長	森 博臣
	岡山市 保健所医務監	松岡 宏明
	岡山市 医療政策推進課長	中山 真一
	岡山市 医療政策推進課 課長補佐	近藤 啓介

※欠席の岡山大学病院 前田 嘉信院長、一般社団法人岡山市医師会 平田 洋会長からは
事前に意見をいただいた。

- 5 内容
 - (1) 現状と課題について

医療を取り巻く状況、地域の状況、岡山市立金川病院及び岡山市久米南町組合立
国民健康保険福渡病院の状況について認識共有
 - (2) 意見交換

課題や今後の論点と考えられることについて意見交換
- 6 会議資料 第1回岡山市御津・建部地域における医療に関する検討会資料

7 会員・関係者の発言・意見概要

(1) 医療人材の確保が困難な実態に関する発言・意見

〈医師に関すること〉

- 医師確保が難しい状況の中、働き方改革（時間外労働の上限規制）の影響により、宿直医師による時間外・休日の急患応需、看取りが困難になっている。

〈看護師に関すること〉

- 医師と同様、看護師も市中心部に偏在している。
- 看護師養成校で定員割れが生じており、人数と質の確保が難しくなってくる。
- 看護師よりも賃金水準の高い他職種へ転職するケースが増えてきている。
- 地域に認定看護管理者や特定行為研修修了者の看護師がいることが望ましいが、研修修了者数が少ないことや配置先の問題から難しい状況にある。

(2) 地域の医療需要の実態に関する発言・意見

- 金川病院・福渡病院だけでなく、地域の診療所も患者が減少している。
- 地域に通院困難な高齢患者が増え、訪問診療の需要がある。広いエリアのニーズをカバーするため、金川病院・福渡病院においても訪問診療を実施している（福渡病院は久米南町の北端までカバーしている）。
- 地域に訪問診療の需要はあるが、人口減や患者の施設入所などにより、訪問診療が増えている実感はない。
- 金川病院は、地域にない診療科があること、CTによる画像検査ができること、看取り機能により、御津地域の診療所にとって重要な役割を果たしている。
- 福渡病院は、近隣にない機能である人工透析と複数の専門外来があり、地域の医療ニーズに応えている。
- 急性期の国立病院機構岡山医療センターは、回復期の金川病院・福渡病院と連携して、地域医療を提供している。
- 地域にない診療科の受診には、岡山市中心部や津山市まで移動している。
- 高齢者が多い地域であり、これから必要となってくる訪問看護も不足状況にある。地域の訪問看護ステーションは久米南町や赤磐市なども含めた広いエリアをカバーしている。

※金川病院建物内には金川訪問看護さくら看護協会(サテライト)があり、福渡病院には岡山市久米南町組合立訪問看護ステーションが併設されている。

(3) 今後の検討に当たっての論点に関する発言・意見

①総論

- 医療機関が少ない地域であることを踏まえ、地域に不可欠な医療機能を抽出し、どのように持続可能な形としていくか検討が必要ではないか。
- 医師をはじめ医療人材確保の観点から、2病院の全ての機能を維持することは困難となっていくため、集約化などによる対応の検討が必要ではないか。

- 検討に当たっては、5年10年先ではなく、より長期を見据える必要があるのではないかな。

②機能

〈入院医療〉

- 入院機能は介護施設との役割分担を踏まえた検討が必要ではないか。
- 国立病院機構岡山医療センターから津山市にかけて、幹線道路の国道53号線沿いにある入院施設は金川病院・福渡病院のみであることを踏まえ、どのように入院機能を維持していくか検討が必要ではないか。

〈外来医療〉

- 福渡病院の人工透析をどうするか（岡山市の津高・一宮地域と津山市の間で人工透析が可能な医療機関は福渡病院のみ）。近隣にない医療機能、診療科数や診療頻度、アクセスをどうするか。

〈在宅医療〉

- 通院困難な高齢患者等のために在宅医療体制の整備が重要となる中、移動距離が長く、移動効率・診療効率が悪いという課題に対して、どう対応していくか。

③その他

- 医療の質の担保には人事ローテーションなどによる組織的な人材育成が必要ではないか。
- 参考となる医療機関再編事例の研究を。